

令和6年4月号

一宮町の歴史特集

— 関和知没後100年 —

綱田の歴史と関和知

【第1回 はじめに】

関和知という人物をご存知でしょうか？まず何と読むのかわからない、という方が多いのではないのでしょうか。答えは「せき・わち」と読みます。

関和知（1870～1925）は東浪見村綱田出身のジャーナリスト、政治家です。明治28年（1895）に東京専門学校（現早稲田大学）を卒業後、アメリカへ留学し、明治40年（1907）に帰国。萬朝報社へ入社後、東京日日新聞社（現毎日新聞社）の編集長となります。

翌年衆議院議員補欠選挙に立候補、一度は落選するも繰り上げ当選し、初当選を果たします。以後17年間にわたり国会議員として活躍します。

大正3年（1914）に成立した大隈重信内閣では司法省副参政官に、大正13年（1924）に成立した加藤高明内閣では陸軍政務次官をつとめます。「次は入閣（大臣）か」と地元の人々から期待されましたが、在任中に病に倒れ、翌年に亡くなっています。

このように優秀な人物であったので

すが、残念ながら知名度はあまり高くありません。ですが、町の「郷土の偉人」として後世に語り継ぐべき人物といえるでしょう。

来年2025年は和知の没後100年の年です。町ではこの節目にあわせ、講座やミニ企画展、シンポジウムを開催する予定です。

綱田が生んだ郷土の偉人・関和知。今回から数回にわたり関和知と、出身地の綱田村の歴史をみていきます。

【本コラムの主な参考文献】

・関和一述・関正樹編『関和知物語』

（私家版、2000年）

・河崎吉紀『関和知の出世』

政論記者からメディア議員へ』

（創元社、2024年）

ほか



▲関和知
（写真：綱田区提供）

（学芸員 江澤一樹）

【問合せ】教育課 ☎（42）1416

令和6年5月号

一宮町の歴史特集

— 関和知没後100年 —

綱田の歴史と関和知

【第2回 綱田村の歴史①古代～中世】

関和知の生まれた綱田はどのような地域だったのでしょうか。残された史料がかなり少ないため、江戸時代より以前の歴史はほとんどわかっていません。

しかしながら、古くから人々が暮らしていた痕跡は残っています。綱田には遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が多くあり、そのうち「中ノ台遺跡」と「黒戌ヶ原遺跡」は一部が発掘調査されています。

中ノ台遺跡は一宮町綱田字東原周辺に所在し、縄文時代中期（約5,500年前～約4,500年前）の後葉の遺跡です。平成9年（1997）に一部が発掘され、竪穴住居跡2軒が確認されたほか、加曽利E式土器や黒曜石などが出土しています。調査面積が狭かったにもかかわらず、多くの出土遺物があったことから、この地域の中核的集落があったのではないかと指摘されています。

黒戌ヶ原遺跡は一宮町綱田字黒戌ヶ原周辺に所在する、古墳時代後期（6～7世紀）の遺跡で、平成8年

（1996）に一部が発掘調査されました。竪穴住居跡8軒が確認されましたが、重複が激しく、出土遺物も破片が多いです（『黒戌ヶ原遺跡・中ノ台遺跡』1999年）。

綱田地域は高台に位置していることもあり、古くから人々が生活の拠点としていた地域でした。残念ながら以降の平安、鎌倉、室町、戦国時代の綱田地域については、史料が残っていないため、その様相はわかりません。しかし村としては存在しており、文禄3年（1594）の「上総国石高村々覚帳」には「綱田村」の名前が見え、石高が308石となっています。戦乱の世を乗り越え、綱田村は江戸時代を迎えることとなったのです。



▲中ノ台遺跡出土の
黒曜石の矢じり

【問合せ】教育課 ☎（42）1416